

The Marubeni logo is displayed in a bold, red, sans-serif font. The background features a large, stylized graphic of overlapping circles in white and red, with a gradient effect on the red areas.

Marubeni IR Day 2025

金属資源投資

勝ち筋実践と戦略プラットフォーム化の追求

常務執行役員

桑田 成一

○ チリに銅鉱山、及び豪州に鉄鉱石鉱山・原料炭炭鉱を保有

○ 当社の資源事業の勝ち筋は

①なくならないニーズ(基幹産業を支えるベースメタル原料に特化) ②カントリーリスクの低い国での権益保有 ③信頼できるパートナー

種別	案件名	国	持分比率	主なパートナー	年間生産能力※1
銅	Los Pelambres	チリ	12.5%	Antofagasta Minerals	400千トン
	Centinela(地金)	チリ	30.0%	Antofagasta Minerals	100千トン
	Centinela(精鉱)	チリ	30.0%	Antofagasta Minerals	200千トン
	Antucoya	チリ	30.0%	Antofagasta Minerals	80千トン
鉄鉱石	Roy Hill	豪州(WA)	15.0%	Hancock Prospecting	64百万トン
原料炭	Jellinbah East	豪州(QLD)	43.0%	Jellinbah Group	5百万トン
	Lake Vermont	豪州(QLD)	38.0%	Jellinbah Group	9百万トン
	Hail Creek	豪州(QLD)	12.0%	Glencore	9百万トン

(2025年10月現在)



Roy Hill鉄鉱山



Hail Creek原料炭鉱



Jellinbah East原料炭鉱



Antucoya銅鉱山



Lake Vermont原料炭鉱



Centinela銅鉱山

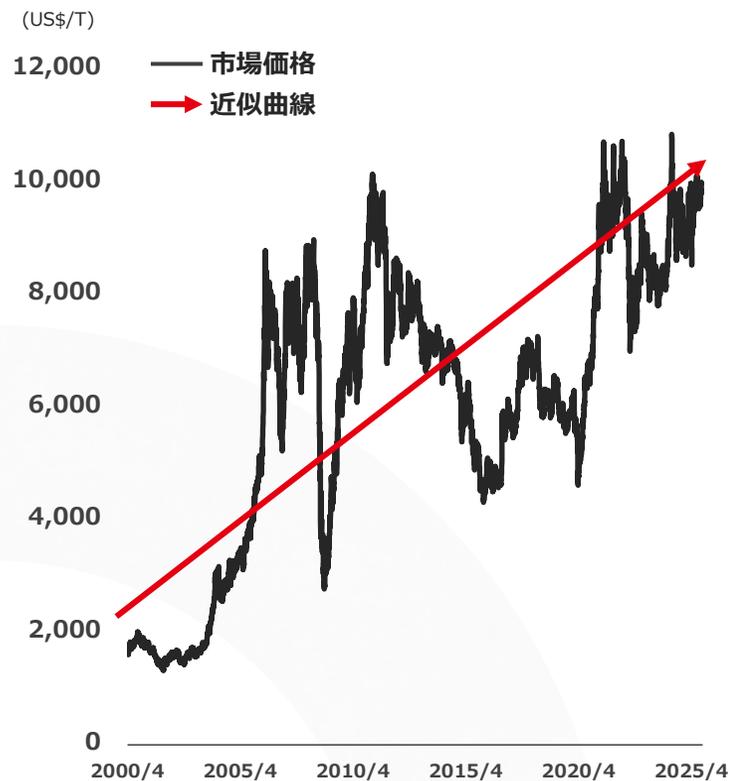


Los Pelambres銅鉱山

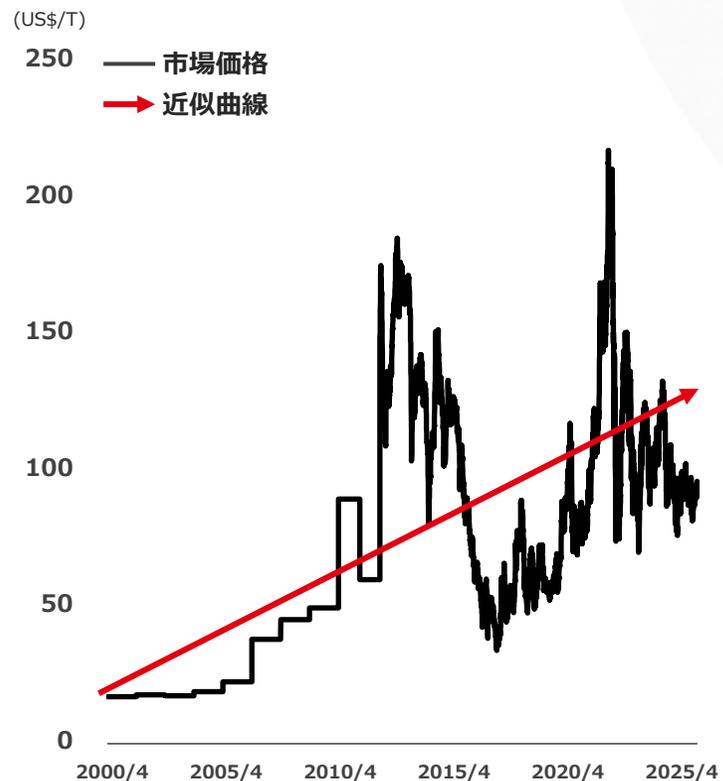
※1 プロジェクト100%ベース

- 市場価格は歴史的には短期で上下を繰り返しつつも、近似曲線の通り中長期では上昇を続けてきた
- 基幹素材であるベースメタルの原料として、世界経済の成長・人口増に伴う実需増に支えられてきた

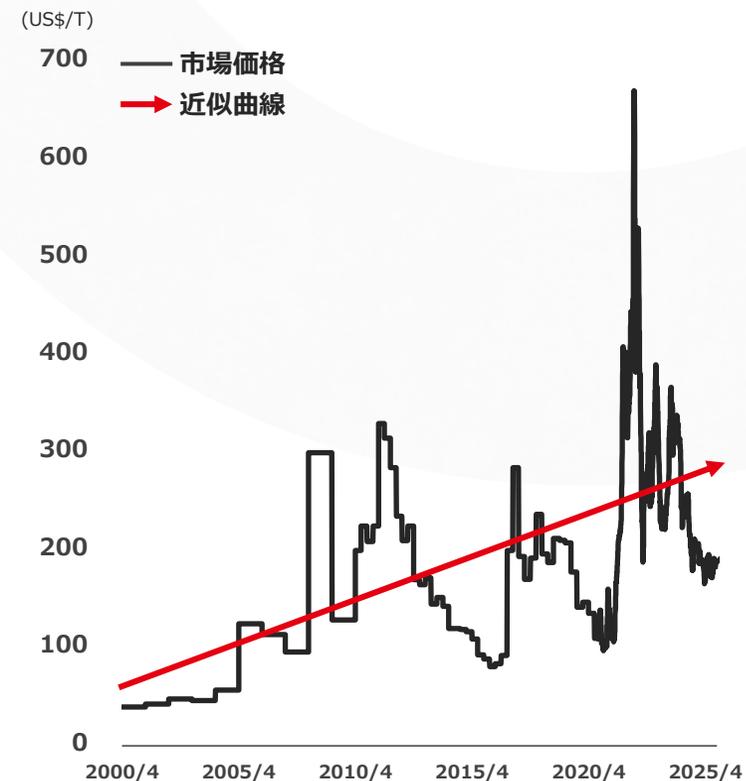
銅 価格推移



鉄鉱石 価格推移

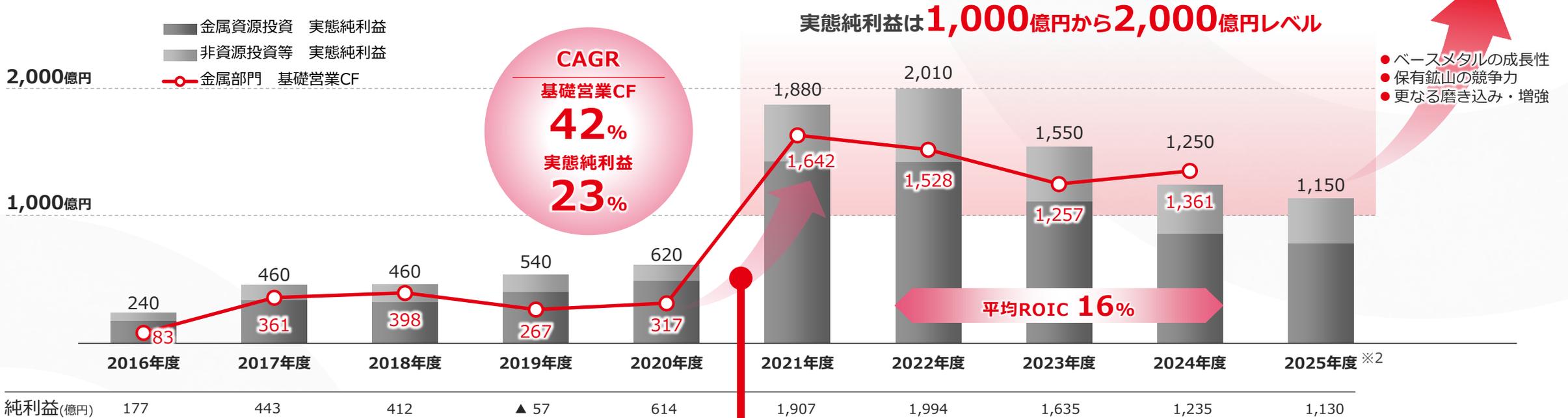


原料炭 価格推移



(出典) 丸紅作成

- 高い成長率…過去9年間のCAGRは基礎営業CF 42%、実態純利益 23%
- 高いROIC…GC2024期間の平均ROIC 16%(過去9年間の平均ROIC 12%)
- 高収益の実現…21年度以降、実態純利益※1は1,000億円から2,000億円レベル



2020年度から2021年度にかけての市況上昇を捉える基盤が確立

- Centinela、Antucoya銅鉱山のフル生産体制確立(2017年度～2018年度)
- Los Pelambres 銅鉱山権益の追加取得(2018年度)
- Roy Hill 鉄鉱山のフル生産体制確立(2017年度)
- Hail Creek原料炭鉱権益の追加取得(2018年度)

※1 純利益から一過性要因を控除した概数

※2 2025年5月2日 公表見通し

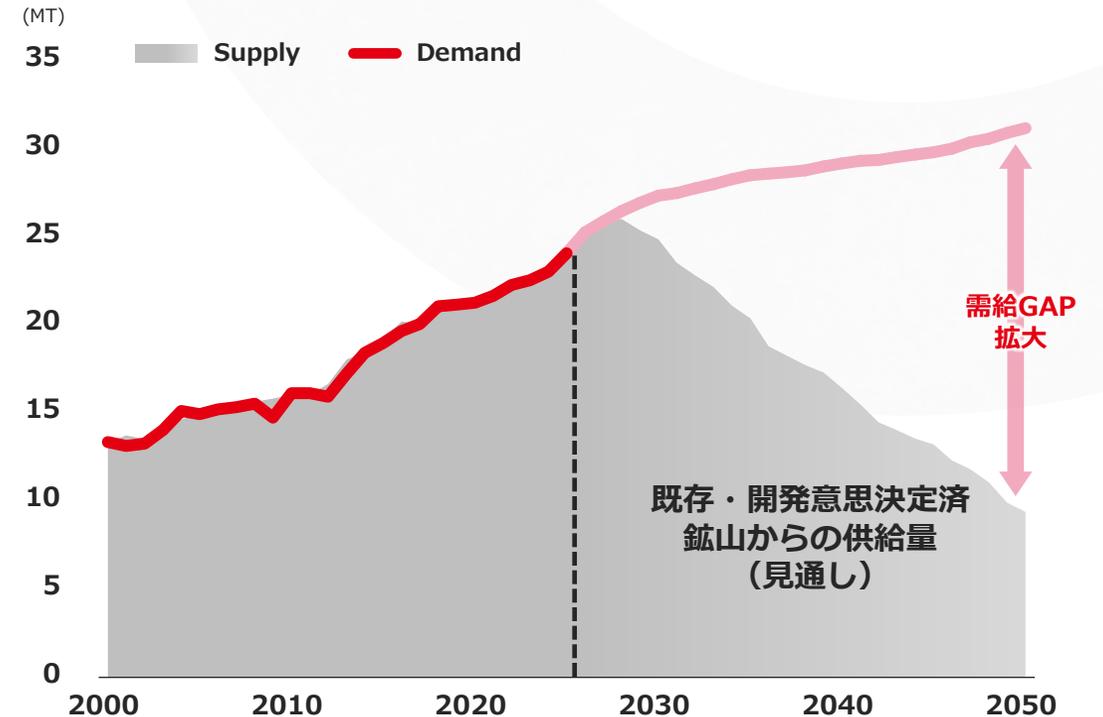
- 先進国でのAI普及によるデータセンター建設、新興国の経済成長に伴う電化・インフラの拡大、世界的な電力需要増加、それに伴う送電線供給の逼迫
- 今後も増加し続ける需要を満たす為の新規鉱山開発は、低品位化・僻地化・高地化・許認可の厳格化などにより開発難易度が増し、今後ますます上昇が見込まれる開発コストも足枷となり、限定的

時代の変化は2050年へ向けて銅需要を飛躍的に増加させていく

- AI普及に伴うデータセンター向け需要増加
▶ 2050年へ現状対比で**6倍**の銅需要
- 再生可能電源増加に伴う送電線向け需要増加
▶ 2050年へ現状対比で**2倍**の銅需要
- EV普及に伴う銅需要増加
▶ 2050年へ現状対比で**4倍**の銅需要
- インド・東南アジアの経済成長
▶ 2050年へ現状対比で**6倍**の銅需要

(出典) Wood Mackenzie、BHP

銅鉱山 需給見通し

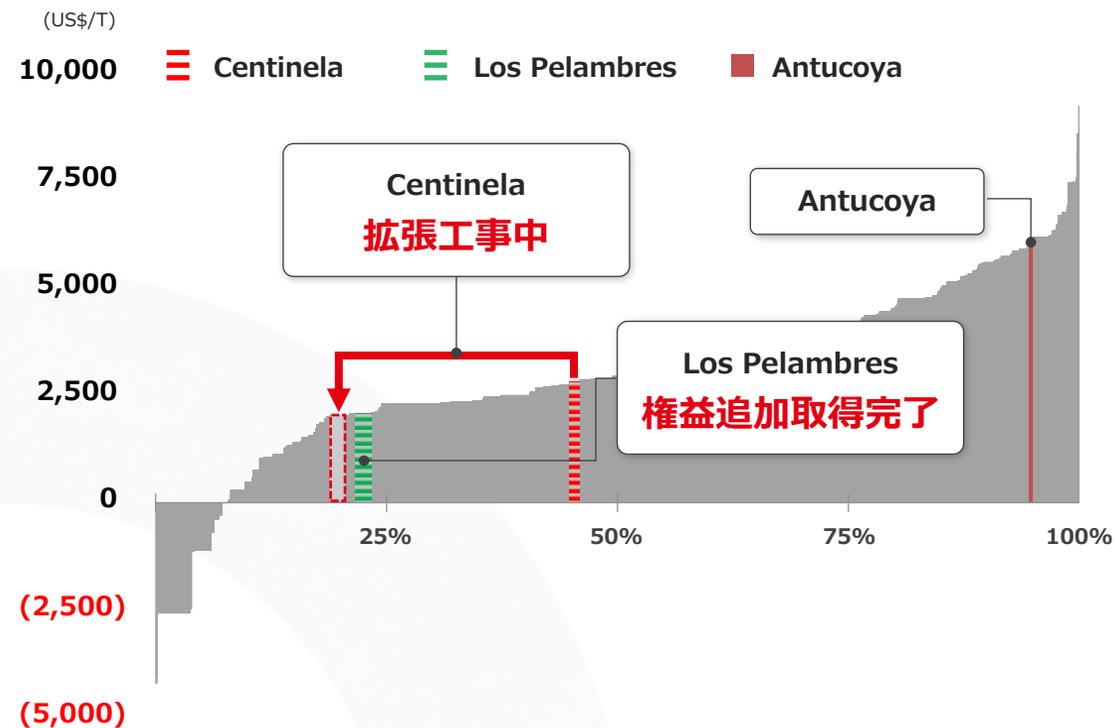


(出典) Wood Mackenzieデータを元に丸紅作成

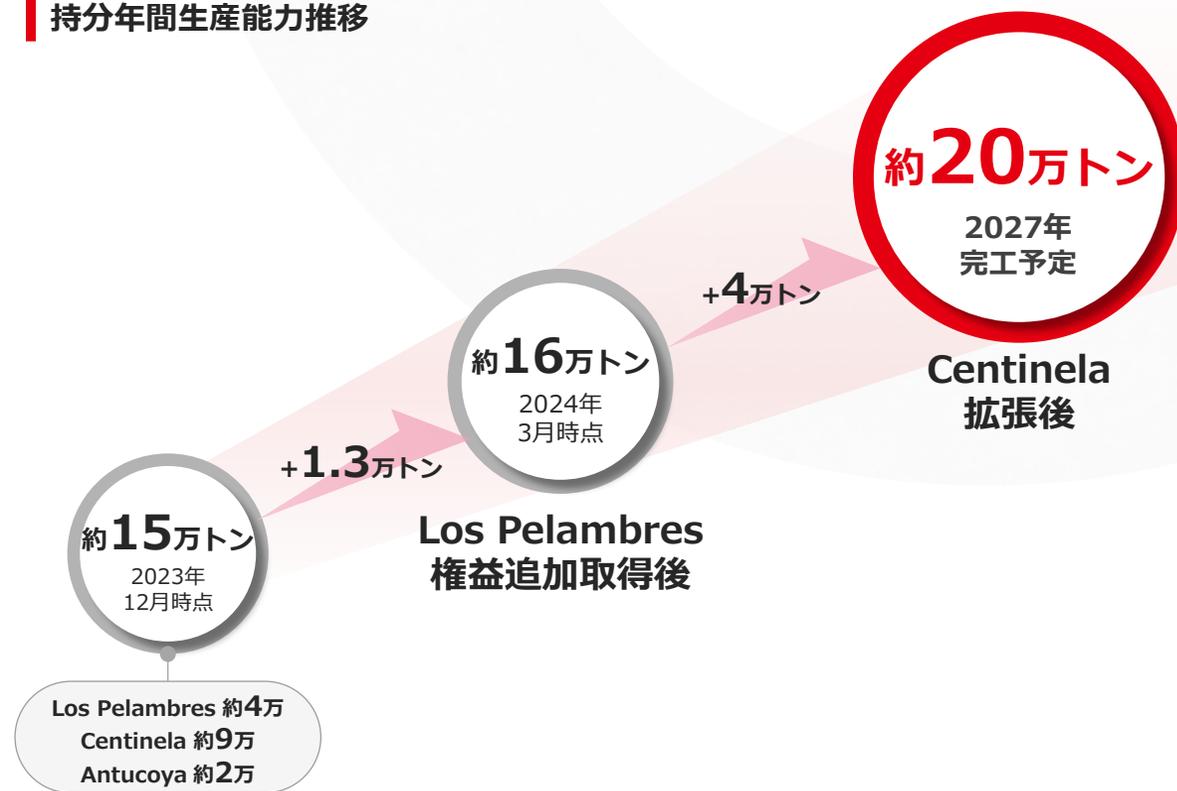
当社保有銅鉱山の競争力と権益拡充

- 主力の銅鉱山は世界有数のコスト競争力、安定操業を維持
- 市況価格の下方耐性に加え、上昇時に享受できる収益が大きい
- Centinela拡張による更なるコスト競争力強化(2027年完工予定)

各資産のコストカーブ



持分年間生産能力推移



高い成長性を実現

3 保有権益の拡充

既存事業の拡張・周辺鉱区の開発

- 鉱山の規模拡張による資産価値向上

競争力の高い資源権益の拡充

- 既存事業の権益追加取得による収益基盤の増強

- 2024年3月
Los Pelambres銅鉱山の追加権益取得
- Centinela銅鉱山拡張プロジェクト推進
(2027年完工予定)



2 グリーン化/サステナビリティ社会への対応

サステナビリティ社会への対応

- 低環境負荷資源の安定供給

鉱山のグリーン化

- 環境負荷低減による付加価値向上・コスト削減

- 保有する全ての銅鉱山の
使用電源の100%再生エ
ネルギーを実現



- Centinela銅鉱山による海水利用、
Los Pelambres銅鉱山の淡水化
プラント稼働により水資源を保全



- 保有するすべての銅鉱山で
責任ある生産への貢献を示す
Copper Markの認証を取得



1 コスト競争力強化

リモート操業・自動化

- 安定操業、操業効率化、生産性向上による
操業コスト削減

既存事業の磨き込み

- 鉱山の安定操業継続
- 操業コスト削減

- 銅鉱山の生産性向上、操業コスト削減の取り組み
- Los Pelambres銅鉱山増強プロジェクト



- Centinela銅鉱山における
リモートオペレーションによる操業



- 急成長が見込まれるAI・データセンター、EVなどの電化、新興国の経済成長により世界的な電力需要が増加。これらすべてに銅は不可欠
- パンパシフィック・カッパー社への出資やインド内需向け銅地金輸入の大宗を占める当社プレゼンスで足掛かりを構築
- 周辺にある成長領域・地域への取り組みにより、銅事業全体でボラティリティを低減

競争力のある鉱山投資をベースに、周辺領域の成長分野を取り込み、重層的な価値拡張を目指す

2000～

銅鉱山事業



2024～

銅精錬



銅リサイクル



GC2027

戦略プラットフォーム3要素
(成長領域×高付加価値×拡張性)の追求

AI・データセンター領域

- 高機能材料としての精密圧延材、ターゲット材等
- 電力需要増加に伴うケーブル製品等



インド、ASEAN地域

- 人口増加・都市化に比例し、需要が増加するインフラ・建築用の加工製品
- 購買力増加に伴い需要が増加する自動車や家電用の熱交換材等

